

構造的な板書作り

取組みの柱④：構造的な板書作り

1 「板書づくり」の方向性

板書の機能は、「視覚に訴えて考えさせたり、理解させたりするはたらき」である。板書を通して、児童の思考が整理される。そこで次の3点を心がけて板書づくりを行う。

【めざす板書】

- ◇授業の流れ・思考の流れが分かる、構造的な板書
- ◇児童の意見を大切にし、考えを学びあえる板書
- ◇児童のノート作りの参考になる板書

「めざす板書」を作り上げるために、次の6点を具体的な板書づくりのポイントとして取り組む。

ポイント1 文字の大きさの工夫	<ul style="list-style-type: none">・大事なこと・記述は大きく目立つように書く等、文字の大きさを変える工夫をする。・後の席でも見えるように字の大きさを考える。			
ポイント2 色チョークの活用	<ul style="list-style-type: none">・大事なこと・記述を、色ではっきりさせて書く。 <table border="1"><tbody><tr><td>白・・・基本</td></tr><tr><td>赤・・・学習課題，まとめを囲む</td></tr><tr><td>黄・・・児童の発言，重要用語，キーワード</td></tr></tbody></table>	白・・・基本	赤・・・学習課題，まとめを囲む	黄・・・児童の発言，重要用語，キーワード
白・・・基本				
赤・・・学習課題，まとめを囲む				
黄・・・児童の発言，重要用語，キーワード				
ポイント3 枠囲み・傍線・矢印の活用	<ul style="list-style-type: none">・大事なことから・記述を枠で囲んだり，傍線を引いたりすることではっきりさせる。・矢印を使って，ことからのつながりをはっきりさせる。・因果関係（原因→結果）を矢印で表す。・心情曲線で，心情の変化を視覚的に表す。			
ポイント4 絵や図表の活用	<ul style="list-style-type: none">・絵を使って，想像を誘う。・表を使って比べる。・文章の組み立てを簡単な図表で表す。			
ポイント5 カードや小黒板の活用	<ul style="list-style-type: none">・焦点化させたい記述をカードで示す。・並び替えて思考を深める場面で活用する。			
ポイント6 書く位置の工夫	<ul style="list-style-type: none">・上下で区切り，対比できる構造にする。・心情の高まりや距離感を，書く位置（高さ）で表す。			

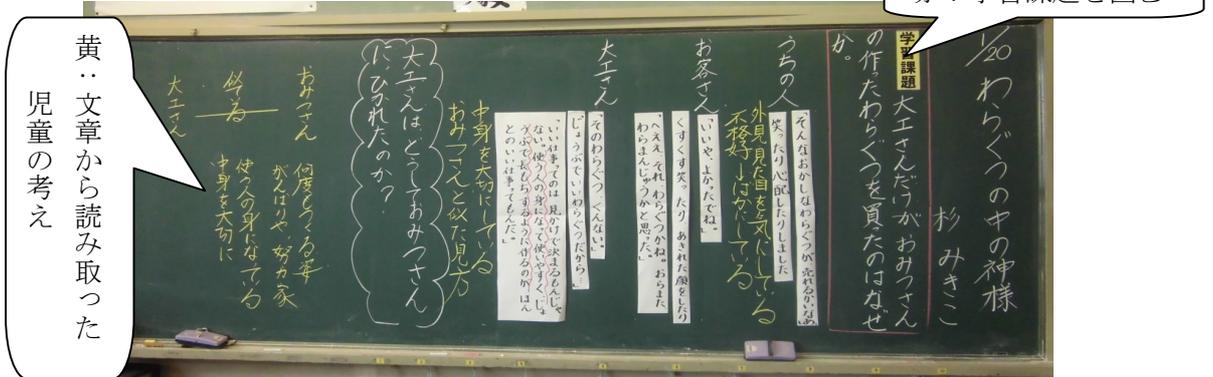
2 板書の構造

(1) 国語科

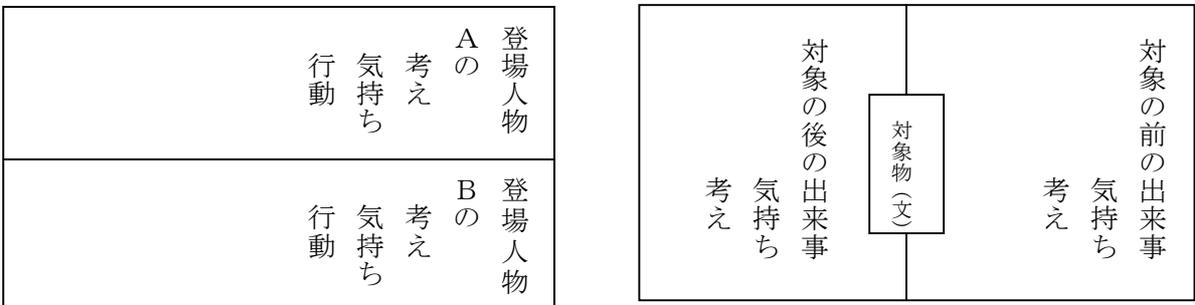
①基本の構造



例：5年「わらぐつの中の神様」

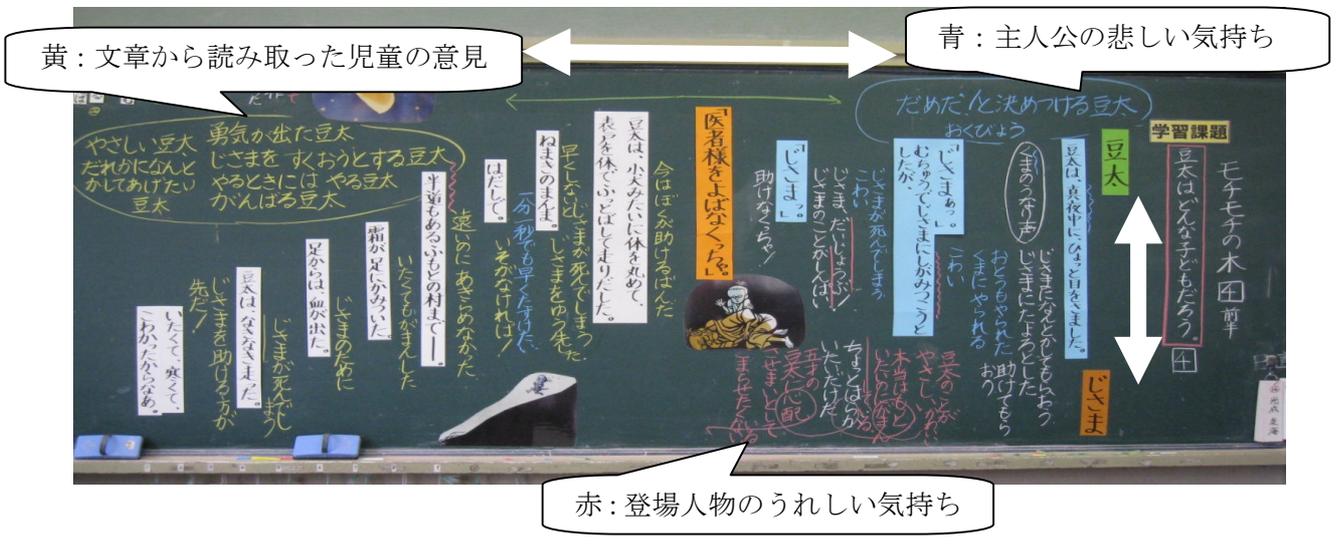


②対比構造



例：3年 「モチモチの木」

豆太の行動や心情とじさまの行動や心情

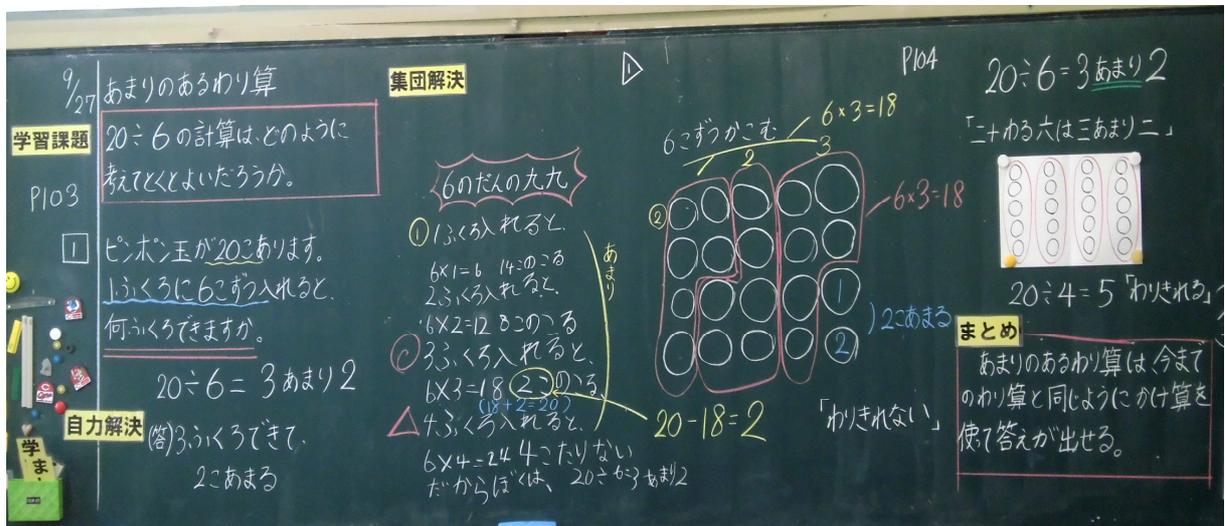


(2) 他教科 (算数科・社会科等)

① 基本の構造

日付 ページ	単元名 課題 問題・資料提示 見通し	自力解決 集団解決 ・図や言葉・式で児童の考えを書く。 ・ポイントを付け足したりする。 ・出た意見を分類・整理したり、見出しを付 けたりする。	練習問題 まとめ
-----------	---------------------------------	--	---------------------

例：3年 「あまりのわり算」



(注) 学習課題の書き方

学習課題
ごんに対する兵士の気持ちは、どのように変わっただろうか。

~~学習課題
ごんに対する兵士の気持ちは、どのように変わっただろうか。~~